

幼児期における親のしつけ観と課題

後 藤 ヨシ子*

(平成9年3月14日受理)

Problems and View of Discipline of Parents in Early Childhood

Yoshiko GOTO

(Received March 14, 1997)

はじめに

しつけとは、その本質は自分が生きるために必要な、そして人と一緒に生きていくためにどうしても必要な配慮の習慣といえることができると思われる。人が生きる基本を身につける大切な習慣は家庭が主体をになっているといえるが、昨今では家庭教育の低下がいわれる。現在価値観の多様性がいわれる中、親がどのような子育て観、社会的価値観を抱いているかが、子どもへの接し方・しつけ観にも大きな影響をもたらすといえる。また今日、子育て環境の変化も大きく少子化、核家族化、地域力の低下の中、子育て支援の必要性もいわれている。

今回は生涯発達の視点から基本的な生活習慣の形成時期である幼児期のしつけの自立に関し、親のしつけ態度・しつけ観、父親の育児参加を分析し、子育て支援の基礎資料ならびに少子化時代における子育ての課題について検討を行った。

研究方法

対象は長崎市内幼稚園児3・4・5歳組の幼児をもつ母親270名に、しつけに関する諸要因、しつけ観等について質問紙法により調査を行った(表1)。調査期間は1995年10月に実施した。

研究結果

1. 父親の子育て参加状況

男女平等意識の進展は、父親の家事・子育てにおいても男女協同参画は進みつつある。子どもにとつ

表1 対象

		男	女	計
年 齢	3 歳	10	11	21(7.8)
	4 歳	51	56	107(39.6)
	5 歳	74	68	142(52.6)
	計	135(50.0)	135(50.0)	270(100.0)
出生 順位	第1子	38	35	73(27.0)
	第2子	55	58	113(41.9)
	第3子～ ひとりっ子	27	22	49(18.1)
		15	20	35(13.0)
家族 形態	核家族	109	98	207(76.7)
	拡大家族	26	35	61(22.6)
	無回答	0	2	2(0.7)
就業 有無	共働き	31	29	60(22.2)
	専業主婦	103	105	208(77.0)
	無回答	1	1	2(0.7)

*長崎大学教育学部家庭科教室

でも幼児期の体験のなかで、父親とはどのような生活場面でかかわりをもち、心の中に父親像を存在させていくか、また親子関係における父子相互の信頼関係や父親意識は子どもとのやりとりの中から形成されてくるものといえよう。

まず父親の子育ての協力参加の内容であるが、「子どもと遊ぶ86.2%」そして「お風呂にに入れる80.0%」が父親の8割余りに見られる行動である。これらは父親が限られた時間のなかで子どもとかかわりをもち楽しい時間と子育ての役割りを担う最も適した内容なのであろう。また「しつけについて話し合う69.8%」「子どもを叱る、注意する85.1%」というしつけ面においても7～8割とかなり高い割合が見られる。しかし「子どもの食事の世話20.5%」「寝かしつける32.8%」「着替えを手伝う24.3%」といった育児の世話の面では2～3割と減少している。他方父親の家事面での協力参加は、総じて低く「買い物をする48.1%」が唯一高く5割、次いで「ゴミを捨てる32.8%」の3割に、「食事を作る10.1%」「掃除をする15.6%」は1割強、「洗濯をする5.6%」が中でも最も参加率は少ない状況にある(表2)。

表2 父親の育児参加状況

項 目		人数(%) 複数回答		
		共 働 き	専業主婦	計
世 話 ・ し つ け	子どもと遊ぶ	55(91.7)	176(84.6)	231(86.2)
	子どもをお風呂にに入れる	44(73.3)	170(81.7)	214(80.0)
	子どもの食事の世話をする	13(21.7)	41(19.7)	54(20.5)
	子どもの着替えを手伝う	17(28.3)	47(22.5)	64(24.3)
	子どもを寝かしつける	18(30.0)	70(33.7)	88(32.8)
	子どもの送り迎えをする	24(40.0)	59(28.4)	83(31.3)
	子どもを叱る、注意する	49(81.7)	179(86.1)	228(85.1)
	子どものしつけについて話し合う	39(65.0)	148(71.2)	187(69.8)
家 事	食事をつくる	8(13.3)	19(9.1)	27(10.1)
	掃除をする	9(15.0)	33(15.9)	42(15.6)
	洗濯をする	1(1.6)	14(6.7)	15(5.6)
	ゴミをすてる	24(40.0)	64(30.8)	88(32.8)
	買い物を一緒にする	29(48.3)	100(48.1)	129(48.1)

母親の就業の有無別にみると、父親の育児面での協力参加は「子どもと遊ぶ」「子どもの送り迎えをする」、そして家事面では「ゴミを捨てる」ことにおいては専業主婦の父親にくらべやや割合は高く見られるが、総じて働く母親は育児・家事、そして仕事もと3役を果たしているのが現状といえる¹⁾。このように父親の家事への協力参加意識はまだ現状では低いといえるが、殊に子どもとの遊びやしつけ面における父親の協力意識は高まっている。父親は母親の子育てに対する心の支えのみでなく、幼児にとっても父親との体験は豊かな人間関係や多様な価値観の存在を学ぶよい機会でもある。子ども時代の体験は子ども時代にしか得られない。それ故に子ども時代の父親との触れ合う体験の意義は深いものといえる。

2. 現実と理想のしつけの主体者

1) 現実のしつけの主体者は、「母親」と答える割合が最も高く(46.9%)、次いで「両親」

(40.7%)である。この両親の割合は父親が共にしつけの主体者・協力者であることを示す割合でもある。しかし「父親」が単独でしつけの主体である割合は0%であった。そして「祖父母」のしつけへの関与は、家族形態別にみると核家族では1.8%であるが、祖父母同居の家族では25.6%を占める。また共働き家庭では、「祖父母」がしつけの主体である割合も21.0%を占めている。母親の就業は祖父母同居であることが共働きを可能にしており、換言すれば祖父母に依存できる家庭では共働きを継続できているということができよう。

なお子どもの出生順位による差異は見られないが、しつけの主体は男児では「両親」が、女児では「母親」と考える割合が若干多い。

2) しつけは誰が行うのが望ましいか、理想のしつけの主体者は、「両親」と答える割合が圧倒的に高く7割を占める(72.5%)。そして「母親」と答える割合は16.2%であった。現実のしつけの主体は「母親」である割合は半数を占めていたが、理想ではその3分の1、今後の課題として理想が現実と整合していくための努力にあるといえる。また「父親」が理想のしつけの主体者としての割合は理想においてもわずか1名のみであった。幼児のしつけの主体は「両親」が望ましいと考える割合の高さに示されているように、「父親」は単独でしつけの主体者としての位置づけではない。

理想として「祖父母」がしつけの主体者という考えは少ない(5%)。また「幼稚園の先生」もほぼ同率の5.6%にとどまっている。総じて幼児をもつ親は、しつけの主体は「家庭」で「両親」が行うという考えを示していることが伺える。

なお核家族では、祖父母同居の拡大家族に比べ、理想のしつけの主体者は「両親」や「幼稚園の先生」とする割合が若干高い傾向がみられた。

3) 父親にもっとしつけ面での積極性を望むか

母親は父親のしつけ面にさらに協力参加を望む割合は、ほぼ6割は「その必要はない」と現状の父親に満足している。しかし就業の有無別では専業主婦がより強く望み約4割、共働きでは3割の母親がさらに望んでいることが伺える(表3)。

父親の職種では自営業(29.6%)よりも、公務員(44.2%)や会社員(41.2%)の父親にもっと協力参加を望む傾向が見られている。

表3 父親にもっとしつけ面に積極性を望むか

		人数(%)					
		は	い	その必要はない	その他	無回答	計
性別	男	51(37.8)		81(60.0)	1(0.7)	2(1.5)	135(100)
	女	49(36.4)		79(58.5)	6(4.4)	1(0.7)	135(100)
	計	100(37.0)		160(59.3)	7(2.6)	3(1.1)	270(100)
就業の有無	共働き	18(30.0)		38(63.3)	1(1.7)	3(5.0)	60(100)
	専業主婦	82(39.4)		120(57.7)	6(2.9)	0(0.0)	208(100)

3. しつけに与える諸要因

しつけに影響を与える諸要因²⁾として表4に示している6要因を中心に検討を加えた。

子どもの性別による相違が見られる。男児では、最も割合の高い要因は、「夫の意見・考え方」であり、次いで「母親自身、自分の受けたしつけ」、そしてマス・メディアによる情報「新聞・雑誌・本・テレビなど」の順に上位3位を占める。女児では、母親は同性の子どもに対しては「自分の受けたしつけ」が最も高く、次いで「夫の意見・考え方」、そして「幼稚園の先生」の順に上位3位を占めている。他方「祖父母の考え方」、また母親にとって「近所の人の意見」はしつけに与える要因としては意外と小さい存在であることが示されている(表4)。これは祖父母同居家族の少なさや地域の人々とのかかわりの薄さが背景にあると考えることができるかもしれない。

表4 しつけに影響を与える諸要因

項 目	人数(%) 複数回答		
	男	女	計
夫の意見・考え方	97(71.9) ^①	78(57.8) ^②	175(64.8)
自分が受けたしつけ	65(48.1) ^③	88(65.2) ^④	153(56.7)
祖父母の考え方	12(8.9)	9(6.7)	21(7.8)
近所の人の意見	2(1.5)	3(2.2)	5(1.9)
幼稚園の先生	13(9.6)	17(12.6) ^⑤	30(11.1)
新聞・雑誌・本・テレビ等	18(13.3) ^⑥	13(9.6)	31(11.5)
その他	4(3.0)	3(2.2)	7(2.6)

4. しつけ内容の重点

幼児期は、乳児期からの快い生活リズムを形成しつつ親との心地よい人間関係、基本的な信頼関係を基礎に生活習慣のしつけが展開される。そして家庭から地域社会へ、幼稚園等の集団生活へと、親子関係に加え友達関係へと人間関係の体験が拡大する時期である。そこでしつけ内容を「健康・生活面」、「情操面」、「人間関係・社会性の面」の3分野に分け、重点とするしつけ内容について検討した。

幼児をもつ母親にとって、しつけの重点は、第一に「健康・生活面」をあげている。次いで「情操面」であり、そして「人間関係・社会性」の順であった。しかし子どもの年齢別に見ると、3歳児は「健康・生活面」をより重視し、4歳から5歳児と年長になるにつれ「人間関係・社会性の面」に重点が推移している。子どもの出生順位や性別よりも各年齢における子どもの成長・発達に対応した親の考え方が示されているといえよう。

これをさらに具体的な項目について親が重視している上位3位までをあげれば

- (1) 「健康・生活面」では、「基本的生活習慣」と「健康な体をつくる」そして「安全に気をつける」である。特により年少である3歳児ほど「基本的生活習慣」に高い重点が置かれており、5歳児では「基本的生活習慣」のほぼ完成に近づくことに伴い「健康な体づくり」に重点が置かれている。
- (2) 「情操面」では、各年齢共通に「おもいやり」と「すなおな心」そして「感謝の心」である。

(3) 「人間関係・社会性の面」では、「友達と仲良く遊ぶ」「悪い時は素直に謝る」そして「約束を守る」である。殊に年齢のより年少な3歳児ほど「友達と仲良く遊ぶ」の割合は高く、他方「悪いときは素直に謝る」は年長である5歳児にその割合は高くなっている。

5. しつけに対する親の接し方

しつけは日常生活の中で多様な場面で親子のやりとりがなされる。具体的なしつけの場面をとりあげ、どのような考え方・態度で接しているか、とりあげてみた。子どもの性差によって親の接し方にも若干相違があることが伺える。

(1) ボタンかけや服の着替えにてまどっている時は

最も多い上位3位は①黙って見ておく(39.6%)②手伝う(21.1%)③励ます(18.1%)である。母親は男児には、「黙って見ておく」、「励ます」が、他方女児には「手伝う」がより多い。

(2) 兄弟や友達とおもちゃの取り合いをしている時は

最も多い上位3位は①黙って見ておく(39.3%)②理由を聞く(24.4%)③口で注意する(23.7%)である。他方「叱る」接し方は見られない。母親は男児の方に「黙って見ておく」が多く、女児の方に「理由を聞く」がより多い。

(3) 自分より小さい子どもの面倒をみている時は

最も多い上位3位は①ほめる(63.3%)②黙って見ておく(35.9%)③励ます(3.3%)である。母親は男児に「ほめる」が女児より多い。

(4) 食事中に立ち回ったり遊びだしたりした時は

最も多い上位3位は①叱る(51.9%)②口で注意する(35.9%)③やめさせる(16.3%)である。他方、「黙って見ておく(0.4%)」「理由を聞く(1.5%)」は非常に少ない。

母親は女児に「やめさせる」が男児より多い。

(5) 乱暴な言葉を使った時は

最も多い上位3位は①口で注意する(56.3%)②叱る(26.7%)③教える(8.9%)

母親は男児の方に「叱る」が多く、女児には「口で注意する」が多い。

(6) はしの使い方がおかしい時は

最も多い上位3位は①自分が手本を示す(51.5%)②教える(26.3%)③口で注意する(15.6%)である。母親は男児の方に「自分が手本を示す」が多く、女児の方には「教える」が多い。

(7) 友達と遊びたがらない時は

最も多い上位3位は①理由を聞く(58.5%)②黙って見ておく(22.2%)③質問のような行動はしない(11.5%)である。母親は男児に「理由を聞く」、女児には「黙って見ておく」がより多い。

(8) 約束を破った時は

最も多い上位3位は①理由を聞く(47.0%)②叱る(41.1%)③謝らせる(15.9%)である。母親は男児には「叱る」「謝らせる」が女児よりも多い。

(9) あいさつをしない時は

最も多い上位3位は①口で注意する(34.4%)②自分が手本を示す(32.2%)③教える(20.4%)である。母親は男児に「口で注意する」、女児に「自分で手本を示す」がより多い。

(10) 幼稚園に行きたがらない時は

最も多い上位3位は①理由をきく(50.0%)②質問のような行動はしない(35.6%)③励ます(11.5%)である。

他方「叱る(0.7%)」「口で注意する(0.7%)」「黙って見ておく(1.1%)」は非常に少ない。

「このような行動はしない」は女兒(41.5%)のほうが男児(29.6%)よりも多い。そして母親は男児に「理由を聞く」「励ます」接し方が、女兒よりも多く見られている。

6. しつけに対する満足度

現在子どものしつけに対する満足は、6割の親が「満足」と「ほぼ満足している」と答えている。子どもの性差による相違は殆どない。しかし年齢別に見ると「あまり満足していない」と「満足していない」の割合は、3歳児に最も高く(47.6%)ほぼ2人に1人に見られており、これはしつけの途上にある子どもの発達段階の様相を示しているといえる。また子どもの出生順位による親の満足度にも相違がみられている。

しつけに「満足」と「ほぼ満足している」の割合は第2子(63.7%)や第3子以上(75.5%)ほど高く、他方第1子(53.4%)や殊にひとりっ子(48.6%)にその割合は減少している。ひとりっ子をもつ親はしつけに「あまり満足していない」と「満足していない」割合は高く(51.4%)、それは第3子以上(20.4%)の子どもをもつ親の2.5倍に相当している。このことはしつけに影響する子ども側のもつ要因として、兄弟姉妹の有無、出生順位による社会的位置による相違を浮き彫りにしており、今後少子化時代における親の子育てにおける課題を投げかけているともいえる³⁾。

7. 今後のしつけに対するとりくみ方

現在のしつけに「あまり満足していない」と「満足していない」親の今後どのようにしつけに取り組んでいくか、取り組み方に対して考えをたずねた。

最も多いのは「子どもの立場に立って考える」であり、さらに「子どもと話をする」「小さな事でもほめる」「子どもに理由を聞く」の順にあげられている(表5)。中でも

表5 今後のしつけに対するとりくみ方

(「しつけにあまり満足していない」と「満足していない」母親の場合)

人数(%) 複数回答

項目	男	女	計
なるべくたたかない	8(15.1)	8(17.0)	16(16.0) ^⑥
厳しくしかる	1(1.9)	0(0.0)	1(1.0)
なるべく放任する	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
小さなことでもほめる	19(35.8)	16(34.0)	35(35.0) ^⑥
子どもの立場にたつて考える	28(52.8)	27(57.4)	55(55.0) ^⑥
子どもと話をする	23(43.4)	17(36.2)	40(40.0) ^⑥
子どもに理由を聞く	15(28.3)	9(19.1)	24(24.0) ^⑥
悪い時はたたいてわからせる	4(7.5)	2(4.3)	6(6.0)
その他	1(1.9)	3(6.4)	4(4.0)

「子どもと話をする」は4，5歳児に高く，他方「子どもに理由を聞く」は3，4歳児に高い。また出生順位では第3子以上では「小さなことでもほめる」の割合（70%）が高く，ひとりっ子では「子どもの立場にたって考える」が高い（66.7%）。

日常生活場面における親の接し方や姿勢を伺うことができたが，総じて「放任」「厳しくしかる」「悪いときはたたいてもわからせる」という子どもに不快や苦痛を与えるしつけ態度，いわゆる命令や抑制する制限的なやり方・しつけ観は非常に少ない。子どもの気持ちや自主性，欲求を尊重する子ども理解・共感的ないわば受容的・要求的な接し方への姿勢が伺える。

8. 人生を生き抜いていく上で何が大事だと思うか

今日，価値観の多様性がいわれ，親一人ひとりの子育てにおける考え，価値観をもつことが求められている。幼児をもつ母親は人生を生き抜いていく上において何が大事であると考えているか，14項目提示し，親の考えを浮き彫りにした。

上位7位までを示すと，まず「健康68.9%」であることが約7割の親が選択している。次いで「愛情34.4%」そして「家族21.9%」，「人間関係17.0%」と続いており，「社会性11.5%」「生きがい11.1%」「勇気10.7%」の順に，人生の基礎づくりである幼児期のしつけの重点のおき方も関連を見ることができる。他方「勉強0.4%」「趣味0.4%」「学歴0.7%」にたいする考えは幼児期の母親にとってはまだ大事な事柄としてしめされていない。今後子どもが学齢期に達したとき，同様な価値観を示すか否かは今後さらに検討が必要と思われる。子どもの性差による相違は殆ど見られなかった。

おわりに

—今日の課題と提言—

子育てやしつけの基本は，親（養育者）との間に愛情と信頼に満ちた人間関係を体験することを基礎としている⁴⁾。現在では母親の多くは，子どもをしつける以前に育児そのものに大きな悩みを抱えているともいわれる。他方，育児に積極的な喜びを感じ，生きがいや楽しさを持つ母親は，まず父親との関係に特性がある。それは第一に父親が育児に協力的に参加している場合，次いで父親は育児そのものを直接手伝うという協力はしないが，母親との日常的な対話などコミュニケーションには意欲的で，母親がそのことに十分満足としている場合であることを佐々木⁵⁾は述べている。

父親の子育ての協力参加は，今回の調査ではかなり高い傾向にはあるが，まだ十分であるとは言いがたい。また職業をもつ母親よりも専業主婦の方が，父親のしつけへの積極的な参加を望む割合が多い。そして第一子やひとりっ子に対するしつけに母親は「あまり満足していない」とする割合も高い傾向にあった。現在では親自身が少子化時代に生まれ育ち，そして子どもの出生までに身近かに育児を見聞する機会も少なく，子ども本来の姿を知らないまま親になる人も少なくない。この様な親の側のもつ要因は少子化，核家族化の中における今日の子育て・しつけ観の様相や課題を強く提示しているとも言える。

(1) 幼児をもつ母親のしつけに与える主要因は，「父親の意見・考え」と「母親自身，自分の受けたしつけ」であった。母親のしつけ観は，一方母親自身の体験によるところが大きいことが伺えよう。そして母親にとって父親の協力度，夫婦関係の情緒的安定性は最も

重要な要因である。しつけ者の理想は「両親」とする割合は高い。父親とは子育てにおいても良きパートナーシップを築いていくことにあるといえる。それには父親も育児のお手伝いではなく、役割を担うことの意義や喜びをもっと意識の中に位置づける、いわば意識面の改革が求められる。

(2) 「祖父母の考え方」や「近所の人の意見」は、母親にとって現実のしつけに与える影響は小さい存在であることが今回伺えた。かつては祖父母や近隣の身近な人間関係の中から得ていた育児知識や育児不安の解消は少なくなかったに違いない。しかし核家族化の進行は、祖父母からの育児の手助けは減少し、もはや育児知識の伝承も祖父母からではなく、今後は子育て中の母親から母親を通して、育児知識や育児文化を地域の中で新たに創り出し伝承していくことにある。

(3) 今回は幼稚園に通園中の幼児をもつ母親が対象であった。それ故に母親にとって子どもとのかかわり方や子ども本来の姿を知る機会、また親同士の交流や幼稚園の先生からの助言も得られる環境にあるといえる。しかし3歳未満児をもつ殊に専業主婦の多くの場合は、身近にいる父親、育児マニュアルそして母親自身の体験に頼る子育てとなる。地域の中で母親の就業の有無を問わず、気軽に親同士がお互いの育児に触れ語りあい、育児に安心することで解決できる悩みも少なくない。地域の中で母と子の集まりの場をつくる等、積極的な子育て環境の新たな取り組みが望まれている^{6) 7)}。

(4) なお今日、公的な子育て支援施策である地域子育て環境の整備、地方版エンゼルプランが作成されつつある。子育ての基本とする家庭や地域の中で両親が子育てを喜びとし、子どもも両親との間で愛情と信頼にみちた人間関係や生きる喜びを子ども時代に体験できる環境づくり、さらに親の仕事や子育てにおいて個人のニーズや選択に柔軟に対応できる等、環境整備が早急に切に望まれているといえよう。

最後に、本研究の調査にご理解・ご協力を賜りました幼稚園園長・教諭および母親、また資料の集計にご協力いただいた瀬戸口めぐみ、赤木紀子両氏に心から感謝申し上げます。

文 献

- 1) 後藤ヨシ子：長崎市女性問題意識調査一報告書 67-81, 長崎市企画部, 1995
- 2) 大藪 泰他：乳児をもつ母親の育児満足感の形成要因Ⅰ 小児保健研究 53(6), 826-834, 1994
- 3) 堂野 恵子：こどもの発達段階に応じたしつけ—幼児期：やるきを育てる 児童心理 49(6), 36-41, 1995
- 4) 繁多 進：しつけの心理学—心理学に学ぶ子育ての基礎・基本 児童心理 49(6), 3-10, 1995
- 5) 佐々木正美：しつけのできない親の悩み 児童心理 49(6), 28-35, 1995
- 6) 中澤恵子他：育児支援についての一考察 小児保健研究 55(4), 584-590, 1996
- 7) 伊藤裕康他：少子化時代への対応—大阪府の取り組み 公衆衛生 59(6), 395-398, 1995